

# 石川県立美術館だより

平成17年10月1日発行 第264号

## サントリー美術館名品展 - 日本美術の精華 -

9月23日(金・祝)～10月23日(日) 会期中無休  
午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
土曜日は午後7時まで開館(入館は午後6時30分まで)

前期展示：9月23日(金・祝)～10月7日(金)  
後期展示：10月8日(土)～10月23日(日)



国宝 浮線綾螺鈿蒔絵手箱



色絵牡丹蝶文捻花形皿 古九谷



重要文化財 南蛮屏風 伝狩野山楽筆(右隻)

### 目次

サントリー美術館名品展 日本美術の精華 ...2
加賀藩の美術工芸、古美術優品選.....3
宮本三郎の素描 .....4
今月のコレクション展示室 主な展示作品...4
ミュージアムレポート .....5

企画展TOPIC( 没後20年 鴨居玲展 ).....6
企画展TOPIC( 黒の迷宮 凝視の刻 ).....6
展覧会回顧( 北出不二雄の世界 ) .....7
10月の行事案内、各地の展覧会他.....7
所蔵品紹介、ミュージアムショップ通信他...8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

今月の企画展示室(第7~9展示室)

# サントリー美術館名品展

## - 日本美術の精華 -

前期展示：9月23日(金・祝)~10月7日(金)  
後期展示：10月8日(土)~10月23日(日)

主催 / 石川県立美術館、  
後援 / 北國新聞社、北陸中日新聞、NHK金沢放送局  
テレビ金沢、石川テレビ放送、北陸放送、北陸朝日放送  
企画協力 / サントリー美術館



桐竹鳳凰時絵文台及硯箱 (後期展示)

サントリー美術館は、一九六一年の開館以来、「生活の中の美」を基本テーマに掲げ、日本古来の美術・工芸品を中心に収集を行なっています。またその展示活動は、斬新な自主企画を中心に展示を行っており、私たちが日本の生活文化の根幹を理解し、その伝統を未来に継承する上で示唆に富むものといえましよう。

本展は、二〇〇七年に東京六本木にリニューアルオープンする新美術館での新たな活動を控えたサントリー美術館の特別なご協力を得て、また美術館相互の交流展として開催するものです。展示ではサントリー美術館の豊富なコレクションを以下の六つのテーマに分けて、日本美術の精華をごらんいただきます。

**第一章 花鳥の美**  
四季の美の象徴ともなった花鳥は、屏風や器に描かれ、やがて金を交えた鮮やかな色彩空間を描き出して暮らしを彩りました。日本の豊かな四季の姿を眺めます。

**第二章 異国との出会い**  
十六世紀に日本に渡来した南蛮人の風俗やもたらす文物は、好奇と憧憬の眼差しをもって絵や器物に意匠化されました。また南蛮人も日本の文化・芸術を賞賛し、調度品を祖国に伝えました。

**第三章 遊楽と宴のかたち**  
山野での遊楽や、年中行事、祭礼、芸能に賑わう都の風景は、絵画や酒器などに表され暮らしと宴に彩りを添えました。絵画や食器などに意匠化された遊びと宴の姿を眺めます。

**第四章 装いとたしなみ**  
装いたしなむことは、暮らしに彩りと楽しみをもたらしました。風俗図や衣装、櫛・笄などの髪飾り、化粧道具や香道具の美を眺めます。

**第五章 詩歌と物語**  
美しい言葉の世界は絵画や書、文房具の意匠となり、暮らしに潤いと彩りをもたらしました。物語や詩歌と美術との融合の美を眺めます。

**第六章 茶の湯の美**  
室町後期に誕生した侘茶は、桃山から江戸時代にかけて変遷・展開しました。日本独自の茶の湯の造形美を眺めます。

観覧料	
一般 1,000円	個人
大学生 600円	個人
高校生以下 300円	個人
一般 800円	団体(20名以上)
大学生 400円	団体(20名以上)
高校生以下 200円	団体(20名以上)

当館友の会会員は受付での会員証提示により、団体料金になります。

講演会(入場無料)  
日時 10月2日(日) 午後1時30分  
場所 美術館ホール  
演題 「日本美術にみる暮らしの喜び」  
講師 石田佳也氏(サントリー美術館主席学芸員)

ギャラリートーク(当館学芸員による作品解説)  
日時 9月25日(日)、10月9日(日)、  
10月16日(日)、10月23日(日)  
午前11時から行います。観覧会観覧料が必要です。

展示作品は、国宝一件、重要文化財十一件、重要美術品十件を含む名品を中心に、平安時代から江戸時代後期にかけての各ジャンルの優品一三九件を選び、くろり一堂で紹介するものです。

多彩に展開した日本美術の優品の数々をご堪能いただくことで、現代に生きる私たちが日本文化を再認識するとともに、新たな文化の創造を目的に開催するものです。(作品保護のため、会期中、前・後期に分けて、漆芸作品の展示替えを行ないます)

- |                 |       |
|-----------------|-------|
| ●浮線綾螺鈿時絵手箱      | 重要美術品 |
| 小倉山時絵硯箱 五十嵐派    | 室町時代前 |
| 桐竹鳳凰時絵文台及硯箱     | 室町時代後 |
| 色絵七宝繫文茶碗 野々村仁清作 | 桃山時代後 |
|                 | 江戸時代  |
| ●国宝 重要文化財       | 重要美術品 |
| 四季花鳥図屏風 伝土佐広周筆  | 室町時代前 |
| 花鳥図屏風 伝秋月等観筆    | 室町時代後 |
| 泰西王侯騎馬図屏風       | 桃山時代前 |
| 南蛮屏風 伝狩野山楽筆     | 桃山時代後 |
|                 | 鎌倉時代前 |
|                 | 室町時代前 |
|                 | 桃山時代後 |
|                 | 江戸時代  |



樹下麝香猫図屏風 狩野之信筆 (後期展示)



泰西王侯騎馬図屏風部分(前期展示)



舞踊図部分(後期展示)

# 今月のコレクション展示室

(前田育徳会展示室)

特集

## 加賀藩の美術工芸

9月23日(金・祝)~10月23日(日)

前田家では、初代利家から歴代の藩主が文化事業に深い関心を寄せてきました。なかでも三代利常は傑出した文化大名として知られています。それは外様大名であるがゆえに幕府への政治的屈従を強いられた利常が、自らの文化政策によって天下一大名を誇示する方法を選んだことにより、一層顕著なものとなりました。本来であれば、武器や武具の制作・修理を行っていた細工所は、利常の代に前田家の生活調度、いわゆる大名道具を中心とする美術工芸品を制作するところに変更されました。さらにそれは、綱紀の代に整備・拡充されていきました。時絵の五十嵐道甫や清水九兵衛、あるいは金工の後藤顕兼・程兼といった名工を招き、高祿をもつて召し抱えて、細工所の指導者として名品を作らせ、また後継者の育成にも力を注ぎ、藩内の美術工芸の振興に努めたことで、加賀藩の美術工芸の水準の高さは、江戸や京都をしのぐ勢いとなりました。こうして極めて高い完成度をもった美術工芸品が前田家のもとで収集・育成されていったのです。

五代綱紀は、利常と同様に優れた文物や美術工芸品を収集しました。それと同時に、手に入らないものは写本や模造品を作成し、それらを整理分類することにも努めました。今日的な意味での図書館や博物館的な事業を行っているのが特徴です。工芸の分野で注目すべきは「百工比照」(重文)です。これは諸種の工芸、工匠を比較・対照するという意味で、綱紀が工芸の諸分野の製品や技法を比照すべく、収集・分類整理した標本に自らがつけた名称です。今日では、近世工芸技術の研究に欠くことのできない貴重な根本資料となっています。

今回は「百工比照」から、金色類・時絵梨子地塗色類・金具類などを公開するほか、利常や綱紀の時代に収集・育成された内外の名品を中心に二十一件を公開します。



今回の展示は、文化・芸術の秋にちなみ、絵画と漆工を中心に優品を選んで展示するもので、加賀にゆかりのある名作が多くみえます。秋を中心とする季節感の描写と作品に表された景物詩をお楽しみください。以下で代表的な作品を紹介します。

**西湖図** 秋月等観筆 弘治九年(明応五・一四九六)  
画中には、秋月等観が明応五年に中国留学中の北京で描いたことが記されています。図は中国画から範をとったものと思われ、浙江省杭州の景勝地である西湖の半周を展開図として写し、縮めて描いたと考えられるものです。遠景の山や寺院・樹木などの描写に雪舟派の影響が窺える作品です。

**四季耕作図** 久隅守景筆 江戸十七世紀  
四季耕作図は、中国から伝わった勸戒図の一つですが、守景の作品では中国の風景・風俗をわが国の農村風景と日本の風俗に置き換えられており、詩情豊かな画面となっています。

**光悦色紙貼交秋草図** 本阿弥光悦 江戸十八世紀  
この作品の図様は、金地に秋の草花を装飾性豊かに描き、草花の間には昆虫を写実的に描き加えています。そしてこの秋草図の上に、宗達の下絵に光悦が古今和歌集の歌を書いた色紙を貼り交ぜたものです。秋草図は繊細で情趣に富むもので、書画の美が調和した作品となっています。

**時絵菊慈童図薬籠箱** 伝五十嵐道甫 江戸十七世紀  
薬籠箱の蓋表は、雷光形で斜めに二分する片身替りで、一方は菊が咲く山中の川辺に坐る菊慈童を、もう一方は亀甲繫文地に鶴丸文を時絵で描き、能に通じる幽玄な雰囲気のある作品となっています。

**時絵和漢西景図硯箱** 五十嵐様式 江戸十七世紀  
硯箱の蓋表には日本の秋の風景を、また蓋裏から見込みにかけては、中国の風景をそれぞれ時絵で描くものです。両図では、和漢の風景の対比のほか、上下と左右の異なる空間の広がりもみえます。

( ) 重要文化財 〓 石川県指定文化財

# 今月のコレクション展示室

(第2展示室)

特集

## 古美術優品選

9月23日(金・祝)~10月23日(日)



時絵菊慈童図薬籠箱 伝五十嵐道甫

今月のコレクション展示室  
(第3展示室)

特集  
**宮本三郎の素描**  
9月23日(金・祝)~10月23日(日)



レ・トロワ・グライス 小松市松崎町蔵



捕虜「南方従軍素描集」より

宮本三郎(明治三十八年~昭和四十九年)は、小松市出身の洋画家で、二紀会を創立し、その中心的存在となつて会の運営にあたり、後進の育成にも力を注ぎました。

宮本は素描(デッサン)が非常に好きで、紙と鉛筆があればすぐに描くことにしていました。日々の日課とし、一日に百枚は描いたといわれる素描は、生命力に溢れ、「天賦の素描家」と評された宮本の技量が伺えます。

本特集では、「南方従軍素描集」十六点を中心に、「裸婦」「女優像」を含む計三十四点と、宮本の使用した画材などの資料も合わせて展示し、その卓抜な描写力をご覧いただき、郷土が生んだ偉大な素描画家としての力量を再認識していただきたいと思います。

主な展示作品

「南方従軍素描集」(石川県立美術館蔵)

宮本が第二次大戦中に南方戦線に戦争記録画家として派遣された時に描きました。モチーフはすべて人物で記録画として描かれたものですが、戦時下であつても人々の暮らしに目を向けその生を優しく見つめる宮本の思いが伝わってくる素描集です。

「レ・トロワ・グライス」(小松市松崎町蔵)

ギリシア神話の三美神は美の神ヴィーナスの侍女で、それぞれが、「歎ひ」、「輝き」、「豊かさ」という三つの美の属性をあらわしています。宮本は、このモチーフを題材にして独自の女性美を展開しています。女性の裸体を持つ美しさを追求するだけでは満足せず、女性の裸身を通して、羞恥心や、虚栄心などの心理、或いは喜怒哀楽といった感情を表現しようとした。花冠を被り、緩く下肢をひねっている立姿からは、誇らしさと同時に幾ばくかの恥ずかしさも垣間見ることが出来ます。

前田育徳会展示室

特集 加賀藩の美術工芸  
百工比照 金色類・蒔絵梨子地塗色類・打糸類  
白羅紗地舟帆文陣羽織 金具類・釘隠金具  
秋冬山水図屏風 伝周文  
真鳥羽入箆笥 清水九兵衛  
アエナス物語図毛綴壁掛

第1展示室

●色絵雄雉香炉 野々村仁清  
色絵雌雉香炉 野々村仁清

第2展示室

色絵鶏草花図平鉢 古九谷  
色絵鳳凰図平鉢 古九谷  
特集 古美術優品選

第3展示室(水彩・素描)

3ページをご覧ください。

第4展示室(油彩画・彫塑)

油彩画 アンティックの部屋 円地信二  
1982年 私 鴨居 玲  
彫塑 孤影 石田康夫  
黒い木 清水良治

第5展示室(工芸)

陶磁 彩釉チヨーク描鳥文平茶碗 石黒宗磨  
漆工 蒔絵管「極光」 寺井直次

第6展示室(日本画)

いずみ 齊藤悦子  
咆哮 木島桜谷  
山の秋 玉井敬泉  
虞美人草 野田九浦

一般 350円	個人	一般 280円	団体(20名以上)
大学生 280円		大学生 220円	
高校生以下は 無料		高校生以下は 無料	



蒔絵管「極光」 寺井直次



孤影 石田康夫

今月のコレクション展示室  
**主な展示作品**  
9月23日(金・祝)~10月23日(日)

● = 国宝 = 重要文化財  
= 石川県指定文化財



# ミュージアム レポート

キッズ プログラム 体験講座  
夏休み 親子で楽しむ美術館 親子で鑑賞会



夏休み期間中の企画として、わかりやすく、楽しみながら美術鑑賞が出来るようにと始めました「親子で楽しむ美術館」ですが、その展示会にあわせて、今年も小学生とその保護者を対象に作品鑑賞を楽しみ、その材料の制作体験をして美術に親しんで頂こうと「夏休み 親子で楽しむ美術館 親子で鑑賞会」を企画しました。

小学生向けのコレクション展示鑑賞講座を開いて2年目になりますが、そのつながりもあってか定員をはるかに上回る応募を頂き、改めて関心の高さに驚かされました。ありがとうございました。今年度は小学1・2年生は彫塑に挑戦！・小学3・4年生は工芸に挑戦！・小学5・6年生は絵画（油彩画）に挑戦！と分野・学年を分け、それぞれの学年に応じたプログラムを準備し、作品の鑑賞と、作品の材料制作体験に取り組みました。

## 8月26日(火) 彫塑に挑戦！（小学1・2年生）



親子で楽しむ美術館と、彫刻の展示がある第4展示室で、彫刻作品を鑑賞した後、粘土での制作に挑戦しました。自分の身長よりも随分大きく、様々な材料で出来ている彫刻作品を鑑賞する子供たちの目は真剣そのものでした。粘土での制作には材料に鉛筆廃材のリサイクル粘土を使用し、思い思いのきになるかたちや乾燥後鉛筆として使用できるオリジナル鉛筆の制作に挑戦しました。

## 8月28日(木) 工芸に挑戦！（小学3・4年生）



親子で楽しむ美術館と工芸品の展示室である第5展示室で、美しい着物や染織パネルを前に、技法について解説を聞きながらの作品鑑賞に、素晴らしい鑑賞眼を発揮していました。工芸の盛んな石川県に住んでいても、学校での授業で目にするものは絵画・彫刻作品が主になりがちです。親子で楽しく鑑賞するこ

とで、使うという役目があって美しいものである工芸品が、より身近なものになったのではないかと思います。鑑賞後には輪ゴムを使っての絞り染めに挑戦。白い布に輪ゴムをとめ、染液に浸し、上げた作品の輪ゴムを一つ一つ外していくときのわくわく感が、親子で素敵な表情に表れていたのが印象的でした。今ごろ、ご家庭でハンカチやバンダナとして活躍していることと思います。

## 8月30日(土) 油彩画に挑戦！（小学5・6年生）



油絵の特徴などを聞いた後、親子で楽しむ美術館と展示室でクイズを交えて作品鑑賞になりました。いつも自分たちの親しんでいる画材との違い

を思い出しながらそれぞれの作品の放つ力を汲み取り、鑑賞しました。その後、実際に油絵の具を使用しての材料・制作体験。今まで油絵の具を使ったことのないご家族がほとんどで、モチーフの並べ方から、絵の具の基本的な扱い方まで、親子ともども真剣なまなざしで取り組んでいました。「なかなか上手くいかないなあ」「お父さんには負けてられないよー」と、初めての画材を前に親子で楽しみながら制作する様子が随所にかがわれました。

このように3日間の行事を終了したわけですが、行事終了後に記入して頂いたアンケートを通して、たくさんの良かったという声をいただき、ありがとうございました。また、お子さんからは、心に残った作品の感想もしっかり記入いただき、大変嬉しく思っております。こちらでも大変楽しい3日間でした。また次回のご応募を心よりお待ちしております。



当館のホームページにみんなの作品を紹介しているよ！ぜひ、みてね！  
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>



## 企画展TOPIC

没後20年 鴨居 玲 展  
- 月に叫ぶ - 第2回

鴨居は南米をさまよった後、パリ、ローマと移って制作に感触をつかみます。帰国したのは昭和41年の11月のことでした。その後一大ブレイクを果たすのです。

南米行きに際して一度は退会した二紀会に、一般応募者として出品、再度同人推挙となったのは42年。43年に大阪と東京の日動画廊で個展開催、二紀会会員推挙。翌44年には昭和会賞と安井賞のダブル受賞。この時41歳です。

しかし、安井賞の受賞に関してはいろいろなささやきに苛立つことになります。メキシコの画家ラファエロ・コロネにそっくりだとか、審査員であった師宮本三郎の辣腕のなせる業だとか、鴨居がそうした画壇に嫌気がさしてスペインに渡ったのは46年のことでした。「ドン・キホーテ」の舞台となったラ・マンチャ地方のバルデペーニャスという村にアトリエを構え制作に邁進するのです。ここでの生活は49年まで続きます。

この時代の作品は、廃兵、酔っぱらい、老婆、教会など、どれもが素晴らしいとしか言いようがありません。ズシツとした質量を持つ肉体、奥行きのある空間は、それ以前の作品には見られなかったものです。がっちりとした油絵具の質感をご覧ください。どんなふうにも溶き油を調合すれば、酔っぱらいの皺だらけの頭をああも見事に表現できるのか。おそらく日本の洋画史上、原田直次郎が明治19年にドイツで描いた「靴屋の親爺」以来ではないかと思うのです。そ

の中の代表作が「月に叫ぶ」でしょう。

鴨居は初期の頃、パステルや水彩でしきりに“月”と“男”を描いていました。月に飛びつこうとする者、あるいは月に向かって叫ぶ者、彼らは皆無我夢中の狂騒を見せています。

ところで、なぜ、この酔いどれは月に向かって叫んでいるのでしょうか。ローマ神話では月の女神はルナというすてきな響きを持つ名前が与えられています。でも“月に影響された”という、ルナティックとなると、狂気じみたとか、ばかげたとかと、ロマンのかけらもない意味になるのです。月の気は人を狂わすと西洋ではいわれています。狼男の伝説もしかりです。そう見ますと、この男の顔は少し狼がかってもいます。

鴨居は自分の中に、常に狂い叫びまわる何ものかを飼っていたのでしょうか。月に飛びつく男や叫ぶ男は鴨居自身に他なりません。“人いずこより来たりていずこに去るものぞ”



月に叫ぶ (二木伸一郎 学芸専門員)

“何のために生まれてきたのか、何をすればいいのか”と、誰も自己の存在について苦悶するという経験を若い日に持つでしょう。でも若さ故の悩みは、いずれ歳を経るにつけ、薄らぎ、忘れていくものですが、鴨居の場合それは死ぬまで持続したのです。“自分は本当に絵を描く存在たりうるのか”と。

「没後20年 鴨居玲展」の会期は、11月10日(木)~12月11日(日)です。

## 企画展TOPIC

黒の迷宮 - 凝視の刻 -  
木下 晋・小林敬生・日和崎尊夫 第1回

きのした すすむ

## 木下 晋のペンシルワーク

来年の当館企画展は、「黒の迷宮 - 凝視の刻 - 」と題し、木下 晋・小林敬生・日和崎尊夫という3人の作家による黒線が織りなす細密な凝視の世界をご覧ください。TOPICは計3回の予定で、第1回目は、木下 晋についてご紹介します。

木下 晋は、昭和22年(1947年) 富山県富山市に生まれました。独学で油絵やクレヨン画を制作し、16歳の時、自由美術協会展に初入選し、注目を浴びようになります。やがて、詩人の瀧口修造や美術評論家の洲之内徹氏に認められますが、以後しばらくは苦闘の時代が続きます。1980年頃から鉛筆画に魅せられ、独自の表現方法を確立。現在は、美術館や画廊で個展を開くなど、精力的に作品を発表しています。老人、ホームレス、旅芸人などをモデルに、透徹した目でその人の人生を抉り出し、鉛筆のみで巨大な肖像画を描く画家です。

“良いデッサンはモノトーンでも色を感じさせる”という考えにヒントを得、試行錯誤を繰り返しながら、従来のデッサン、ドローイングとは違った独自の鉛筆画を制作しています。鉛筆には9Bから9Hまで20種があり、それぞれの階調が持つ美しさを色として感じ、それらを使い分ける

ことで、絵の具と同じように様々なトーンの実現ができるのです。モデルの皮膚の皺、髪の毛の一本一本まで細密に執拗に描き込み、見る側に迫ってきます。生々しいほどリアルな画面からは、その人の生き様が刻みつけられているように感じられます。

モデルを描く課程で木下は、とことん話しかけ、様々な質問を浴びせることでその人格を深く理解します。そして、語られる言葉に魂が揺さぶられて初めてその人を描くことが出来るようになるのだそうです。木下の描いたモデルの中では、最後の瞽女(盲目の女性旅芸人)として人間国宝に認定された小林ハルが圧倒的な存在感を放っています。「102年の闘争」は、目元をクローズアップして描いており、その迫力ある画面からは瞽女として生きてきた彼女の激しく厳しい人生が見事に描き込まれています。

(吉村尚子 学芸主任)



102年の闘争

「黒の迷宮 - 凝視の刻 - 木下 晋・小林敬生・日和崎尊夫」の会期は、平成18年1月4日(水)~2月5日(日)です。

## 展覧会回顧

### - 作陶55年記念 - 北出不二雄の世界



たゆまぬ創新の精神が古九谷の伝統であり、北出氏の創作姿勢の原点もここにあり。同氏の作陶55年を記念して開催した本展では、古九谷を常設展示している当館の使命として、

環境展示の観点から従来の展示方法を新たに見直すことにしました。

その際に念頭に浮かんだのは、旭川市の旭山動物園でした。同園は、単に動物の姿形を見せる展示からより自然に近い形で行動や能力を見せる行動展示へと発想を転換して、来園者の低迷状態を脱却しています。この方法を一人の作家の芸術世界を紹介することにあてはめると、作品は広い意味での創作活動の上澄みと考えることができます。そして作家が何をどのように美しいと感じ、それをどのように内面化して作品へと結実させていったかという営々とした努力の一端を知ることによって、個々の作品を、大きな創造過程の中で捉えることができます。こうして、作者の創造過程を共有することによって、作品の理解が一層深まると考えることができるのです。

そこで今回は「古九谷への眼と手」との観点から北出氏の初期から近作までの作陶の歩みと、北出氏が選定し、コメントを添えた当館所蔵の古九谷を中心とした美意識や造形思考の二つの部門による構成としました。会期後半に実施したアンケートによると展覧会全体の感想では89.3%の方がとても良い、あるいは良いと回答され、古九谷の展示方法を含めた展示構成では85.2%の方が大いに評価する、あるいは評価すると回答されています。そして展示の趣旨では80.8%の方が良く理解できた、あるいは理解できたと回答されています(回答総数439件)。また、今後も新たな取り組みを期待するというご意見も多くいただきました。こうした結果を踏まえて、今後更に魅力的で、わかりやすい展示の在り方を研究してゆきたいと考えています。(村瀬博春 学芸専門員)

## 各地の展覧会 ..... 10月

開催日程、休館日、内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。

- 輪島塗技術保存会「守り、伝える匠の技」  
10/9 ~ 11/7  
石川県輪島漆芸美術館(輪島市・0768 22 9788)
- 長谷川等伯展 - 能登時代の仏画と北陸の長谷川派 -  
10/24まで  
石川県七尾美術館(七尾市・0767 53 1500)
- 宮本三郎の戦争と平和 10/1 ~ 11/23  
小松市立宮本三郎美術館(小松市・0761 20 3600)
- 日本の美 - 屏風絵の世界 横山大観から平山郁夫まで  
前期 9/23 ~ 10/10  
後期 10/12 ~ 10/23  
富山県水墨美術館(富山市・076 431 3719)
- パリ・モダン1925 1937  
エコール・ド・パリ&アールデコの世界 10/30まで  
富山県立近代美術館(富山市・076 421 7111)

## 美術館の本

石川県立美術館所蔵品図録	3,500
前田育徳会の名宝 百工比照	1,500
花と緑の名品展	2,000
日本の美	1,500
茶道美術名品展図録	2,500
石川県の工芸	2,000
大樋長左衛門の世界	2,200
西山英雄展	2,000
協田 和展	2,200

税込定価(円)

ミュージアムショップで販売中!!

郵送ご希望の方は当館へ電話でお問い合わせ下さい。

☎ 076 - 231 - 7580

## 10月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月日	行事	内容	会場
10/1(土)	キッズ鑑賞講座	宮本三郎の素描を鑑賞しよう (吉村尚子 学芸主任) 小学生対象の講座です。コレクション展示を鑑賞しながらの講座になります。	講義室 コレクション展示室
10/2(日)	講演会	日本美術にみる暮らしの喜び 講師: 石田佳也氏(サントリー美術館首席学芸員)	ホール
10/8(土)	ギャラリートーク	宮本三郎の素描 (宮 衛 学芸第二課長) 展示室内で行われるため、コレクション展の入場料が必要です。	コレクション展示室
10/9(日)	ビデオ鑑賞会	正倉院宝物6 新羅千年の美(30分) 正倉院宝物7 平城京 街づくりと暮らし(30分)	ホール
10/15(土)	土曜講座	依屋宗達の美術 (村瀬博春 学芸専門員)	講義室
10/16(日)	月例映画会	幻視の画家ボッシュ 千年王国の夢(24分) 文化財を守る人たち(44分)	ホール
10/22(土)	土曜講座	正倉院の金工 (南 俊英 学芸第一課長)	講義室
10/23(日)	ビデオ鑑賞会	正倉院宝物7 平城京 街づくりと暮らし(30分) 正倉院宝物8 天平文化の演出者 聖武天皇と光明皇后(30分)	ホール

10月の全館休館日は24日(月)~26日(水)です。



昭和13年(1938)、国を挙げての戦時体制が整えられていき、軍部は美術家の戦争協力を進める方針を打ち出します。戦意高揚を目的とした日本画・洋画の制作が始まり、大勢の画家が動員され、中国大陸や南方に従軍していきました。そうした中、宮本三郎も、第二次大戦中の昭和17年(1942)4月から6月にかけてタイ、マレーシア、シンガポール、香港など南方に従軍しました。その際に制作した鉛筆の素描が100点以上にのぼり、そのうちの16点が同じ年の9月、第29回二科展に出品されました。

宮本は、著書『宮本三郎 南方従軍素描集』のなかで、「暑い南の土地ではねっちりと物を追求したり、思索しながら描き続けるというのは不適當に思われる。忙しい旅の中で描いた速写であるから、美術的価値は別問題だろう。」と記していますが、短時間の制作ながら、卓抜な素描力で、人物の特徴を的確に捉えています。それらは、主に頭部を緻密に描写し、胴体や衣服はその人物の骨格や年齢、身分などがある程度想像されるくらいに簡略化した表現が多いことが特徴です。宮本の鋭い観察眼と息をのむような素早い筆致で、人体の起伏や姿勢、それを包む空間の微妙な変化はもちろん、その人間の生きたあらゆる瞬間を的確に捉え、生きいきと表現しています。

「マライの少女」は、じっとこちらを見つめる少女の愛くるしく澄んだ瞳が印象的で、戦時中であるということを忘れさせるほど、生命感に溢れ、生の輝きそのものを描き出しています。

「特集 宮本三郎の素描」(第3展示室)で展示中



マライの少女 しょうじょ なんほうじゅうぐんそびょうしゅう (南方従軍素描集より)

紙 鉛筆・水彩

みやもと さぶ ろう

宮本三郎 明治38年(1905)~昭和49年(1974)

昭和17年(1942)

縦36.9 横25.0 (cm)

## ミュージアムショップ通信

平成17年度の当館企画展第2弾、「サントリー美術館名品展 - 日本美術の精華 - 」が開催されます! 企画展TOPICの2回シリーズで紹介してきましたが、日本の生活に深く根ざした作品の収集と展示を行ってきたサントリー美術館の収蔵品から国宝・重文を含む、平安時代から江戸時代後期にかけての優品約140件を展示しています。日本文化の粋を是非、ご覧ください!

というわけで、**展覧会図録サントリー美術館名品展**を紹介しましょう。定価は2,000円。展覧会をご覧になった後は是非この一冊を手にとってください。

「サントリー美術館名品展」図録  
(2,000円)



## 次回の展覧会

- 特別陳列  
朝鮮のやきもの (第2展示室)  
10月27日(木)~12月23日(金・祝)
- 特集  
名物裂と香道具 (前田育徳会展示室)  
10月27日(木)~11月27日(日)
- 至芸の世界 - 人間国宝・芸術院会員 - (第5展示室)  
石川県ゆかりの京都の日本画家たち(第6展示室)  
10月27日(木)~12月23日(金・祝)

休館日: 10月24日(月)~26日(水)

石川県立美術館だより 第264号

2005年10月1日発行

〒920 0963 金沢市出羽町2番1号

TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>